

【用語】七五三切―市場内を仕切つて店の位置を決めること 見せ
―見世、商品を並べて見せる所 已来―以後 鋳物師―鋳物の製作を
生業とする者 極月―十二月 朔日―毎月の第一日

【解説】子持村の白井には、吹屋・鍛冶谷戸・鑛沢など金属加工業に
関係する地名が多い。中世には長尾氏が入部した白井城の総郭内そうくわくで甲
冑師明珍みょうちんが工房を構えるなど、鋳物の製作に適した土地柄であつたこ
とが推定され、江戸時代には吹屋に鋳物師が集団で居住していた。

その創業時期や由来を示す史料は現存しないが、この覚書から市で
の販売を開始した時期がわかる。販売は寛永七年（一六三〇）頃の総社・
渋川村で始まり、次第に増加する鋳物需要に伴い周辺に拡大していっ
た様子がかがわれる。江戸時代の鋳物師は一部を除き、朝廷藏人くわうていざうじん所
小舎人こしやうりの真継家まつぎから免許状を受けて営業していたが、上野国内には吹
屋のほか、甘葉郡下仁田村（下仁田町）・下丹生村（富岡市）、吾妻郡原町
（吾妻町）、群馬郡上新田（前橋市）、高崎、館林などにみられ、彼らは上
野国鋳物師仲間を結成して販売を独占した。なお、小沢家（現在阿久澤
家）は江戸時代を通して吹屋で鋳物業を営んだが、古文書や鋳型の作成
に用いられた回し型などが現在も保存され、県指定の有形民俗文化財
である。